



代々木歯科コーナー

連載



かむ力の検査でフレイル予防
— その95 —
歯科医師 監物佐栄子

前々回に口腔機能低下症の検査項目について紹介させていただきました。今回はその中の一つである咀嚼能力検査についてご紹介したいと思います。

咀嚼能力つまり、どれだけ噛めているかを知るための検査になります。口腔機能低下症の方だけでなく、大きな入れ歯を使用している方も検査を受けることができるようになります。

検査方法としては、グミを一定時間噛んでもらいそれを吐き出してどれだけ粉碎できているのか、グミの中に含まれている成分がどの程度溶け出しているかを測定して、噛む能力を評価します。

検査の結果、数値的に咀嚼能力が低下していることが分かりますので、健口体操でフレイル予防が必要なのか、噛み合わせの治療の必要があるのか、などの治療方針の決定につながります。また検査を定期的に受けることで、フレイル予防の成果が出ているのかや、噛



フォルディ グルコセンサーGS-II

み合わせの治療後、入れ歯を新しくした際の咀嚼能力の変化が分かりやすくとらえることができます。

現在、不自由なく食事ができているとしても筋肉の衰えや、入れ歯の劣化などで咀嚼能力が落ちてきている場合もありますので、気になる方はかかりつけ歯科医院にて相



くすりの話あれこれ¹⁵⁵

「服薬期間中のフォローアップ」について

たくみ外苑薬局 薬剤師 横尾 浩也



今年4月に調剤報酬の改定が行われ、2020年9月から施行された「服薬期間中のフォローアップ」対象となる要件が具体的にになりました。

今回は、この「服薬期間中のフォローアップ」について、お伝えしたいと思います。

改定では「患者に対する継続的な薬学管理・指導を効果的に実施できるよう、薬剤師に把握した患者の服薬情報等の情報

や実施した指導等の内容について記録することを義務づける」とあり、この「継続的な」の文言により、投薬したら終わりではなく、その薬を服薬中もフォローするということになりました。

改定前は、具体的なフォローアップの要件がなかったため、薬剤師が必要と判断した患者さんに行っていました。改定により具体化されたのは、薬剤の変更、新規使用薬のある方、服薬状況の改善のため、一包化を実施している等です。

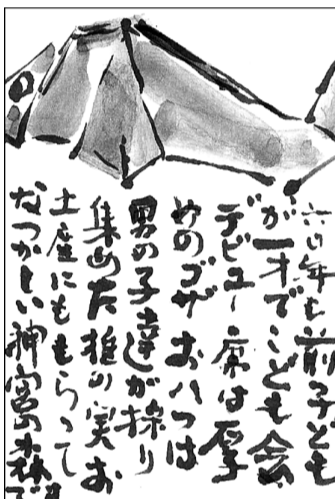
フォローアップの方法としては、後日薬局より

電話で連絡をとり、患者さんからの相談には引き続き対応させていただきます。薬局からの確認をさせて頂く機会が今後増えていくこととなります。

確認内容に関しては①薬剤等の使用状況②使用中の薬剤の効果③薬剤使用中の体調の変化④患者基本情報の変化⑤併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響⑥生活機能への影響⑦生活機能の変化⑧使用中の薬剤に対する意識、などがあげられます。

これまで以上に、薬局と患者さんの繋がりが広まっていくことになり、ご協力をお願いします。

電話やFaxだけでなく、例えば顔の見えるWeb通信の様なICT(通信技術)なども活用してフォローアップが行えるようになっていくと思われま



渋谷区 石井和子

5月の3階渡り廊下



5月の3階渡り廊下は、東山魁夷の「緑響く」、クロード・モネの「日傘をさす貴婦人」、睡蓮が展示されています。新緑の季節らしく鮮やかな作品群に、渡り廊下を通行する利用者さんの目を和ませてくれます。リハビリ中の患者さんとセラピストでリハビリとして作成しています。

サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)



A・EPA、γアミノ酪酸(GABA)などに関与成分としたものなどが販売されています。

各製品は成分に関する研究をもとに、「認知機能の一部である記憶(知覚・認識した物事の想起)の精度を高める」、「健康な高齢者において、認知機能の一部である注意機能(重要な物事に素早く気づけること)や、複数の物事に注意を払えること)の維持に役立つ、また、前向きな気分(頭がさえわたること、生き生きすること、積極的な気分)でいること、活気がわいてくること(など)を維持する」などと表示することが認められています。

ところが、「健康な高齢者」で機能を「維持」という範囲を超え、認知能力の「改善」や認知症

予防まで連想させる広告がめだつようになり、販売されていた製品の6割が、消費者庁から3月に改善指導を受けました。広告の中には、実際の研究結果を示さず、単なる推測を大きく表示した

ものもありません。たとえば「認知機能の維持をサポートする抗酸化作用や血小板抑制作用、血管拡張作用、脳血流改善作用がある」と考えられています」というのは、仮説に過ぎません。

認知症を予防するため

(83) 認知機能を維持できるという食品

